

## 2025 年大阪・関西万博



甲南女子中学高等学校

図書委員会編集

図書館発行

神戸市東灘区森北町 5-6-1

電話 078-411-2531

2025 年といえば、大阪・関西万博が開催されました。世界中から大阪に多くの来場者が訪れ、大きな話題となりました。万博では、さまざまな国や文化、最新の技術に触れることができますが、本の中でも同じような体験ができます。図書館には、世界の国や科学、万博について紹介した本がそろっています。

今年度の万博は、大阪の夢洲（ゆめしま）で 2025 年 4 月 13 日から 10 月 13 日までの 184 日間、「いのち輝く未来の社会デザイン」をテーマに開催されました。私たち甲南女子の高校生も、6 月 20 日に校外学習として万博に行ってきました。日本での開催は 2005 年の愛知万博（愛・地球博）以来 20 年ぶり、大阪では 1970 年以来 55 年ぶりとなります。



日本で万博が最初に開かれたのは 1970 年の大阪万博（日本万国博覧会）で、アジアでも初めての国際博覧会でした。「人類の進歩と調和」というテ

ーマで開催され、シンボルゾーンにテーマ館として作られた「太陽の塔」が広く知られています。

万博では、実際に見て体験することで多くのことを学ぶことができます。しかし、その背景にある歴史や技術、考え方は、本を通してより深く知ることができます。万博をきっかけに、本を通して世界や未来について考えてみてはいかがでしょうか。

### 目 次

P1:2025年大阪・  
関西万博

P2:図書館にある万  
博関連本

P4:今読み返したい  
絵本

P5:図書委員会の  
お仕事

P6:編集後記

## 甲南女子中・高等学校の図書館にある万博関連本

ここでは、人気のあったイタリア館・大阪ヘルスケアパビリオン・アメリカ館に関する本を紹介します。

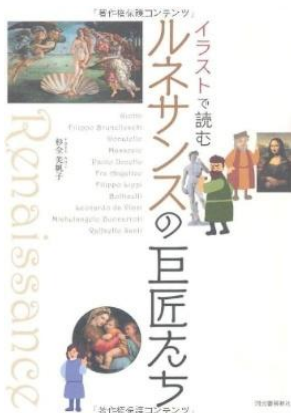
イタリア館では、「アートによって生命が再生する」というテーマのもと、ルネサンス期の“理想都市 (Ideal City)” の概念を現代的に再解釈した建築として構想されています。毎日生演奏イベントが開催されている劇場、ルネサンス的な都市デザインを思わせる貴重なアート作品展示のある「理想都市」、幾何学的な迷路風デザインの「イタリア庭園」の3つのエリアがありました。



### 『一冊でわかるイタリア史』 監修：北原敦

出版社：河出書房新社 237/1

古代ローマから現代に至る複雑なイタリアの歴史を、図解・イラスト付きで丁寧に解説した入門書です。

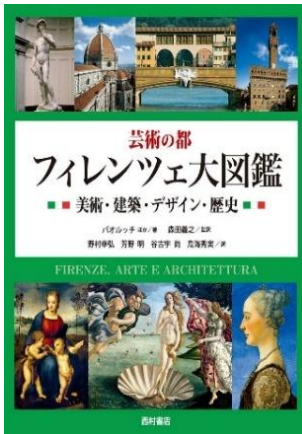


### 『イラストで読むルネサンスの巨匠たち』新装版

著：杉全美帆子 出版社：河出書房新社 02.37/S

イタリア・ルネサンス期を代表する芸術家たちの人生や作品を、オールカラーのイラストと図版でわかりやすく解説した入門書です。

## 『芸術の都フィレンツェ大図鑑：美術・建築・デザイン・歴史』



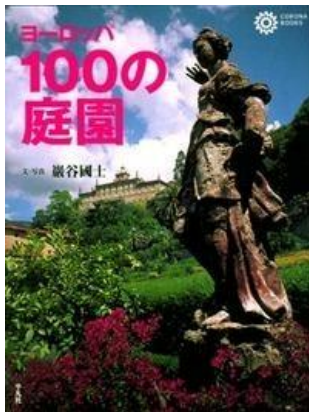
著：パオルッチほか 監訳：森田義之

訳：野村幸弘・芳野明・谷古宇尚・鳥海実

出版社：西村書店 02.37/P

ルネサンスの揺籃の地フィレンツェの魅力を書本などの豊富なカラー図版と、現地専門家による詳細な解説で紐解いている書です。

## 『ヨーロッパ100の庭園』

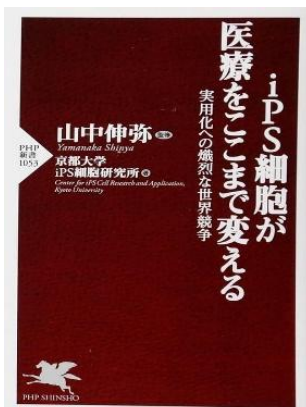


著：巖谷國士 出版社：平凡社 9.23/I

トスカーナのルネサンス庭園、ヴェルサイユの幾何学式庭園、イギリスの風景式庭園など、古代から現代までヨーロッパの多彩な庭園美を写真と文章で紹介するガイドブック的な一冊です。

## 『iPS 細胞が医療をここまで変える：実用化への熾烈な世界競争』

監修：山中伸弥 著：京都大学 iPS 細胞研究所 出版社：PHP 研究所 491.11/キ



「REBORN (リボーン)」、「人が生まれ変わり」新たな一歩を踏み出すというテーマで「カラダ測定ポッド」で健康データをスキャンし、その情報をもとに「未来の自分＝アバター」と出会う未来体験型ライドや、再生医療の最前線である山中伸弥教授の iPS 細胞を使った心筋シートの展示なども注目を集めました。

各国研究者のルポを通じて実用化への課題と希望を描き、日本の優位性維持への戦略を考察する一冊です。

## 『ビジュアル大図鑑宇宙探査の歴史』 著：ロジャー・D・ローニース

訳：柴田浩一 出版社：東京堂出版 538.9/L



アメリカ館は、テクノロジー、宇宙探査、教育、文化、企業精神など、アメリカのリーダーシップを感じる5つの没入型展示空間が並んでいました。

初期のロケット開発から月面着陸、無人探査機、現代の宇宙観光、未来のスペースコロニー計画まで、豊富な写真で技術革新の軌跡を解説した書です。

## 今読み返したい絵本

勉強や部活、人間関係。中高生の毎日はやる事が多くて、つい心がパンパンになりがちです。そんな忙しい今だからこそ、ページをめくるだけで絵が語りかけてくる「絵本」に触れてみませんか。今年学校説明会で絵本に関わったことから、短い時間で気持ちを落ち着かせ、自分自身を見つめ直せるような穏やかな時間を持って欲しいという願いを込めて、この特集を企画しました。小さいころに読んだ物語を、今あらためて手に取ってみると、当時は気づかなかった言葉の意味や、登場人物の意外な気持ちに、共感するはずですよ。

### 『ぐりとぐら』

絵：おおむらゆりこ 作：なかがわりえこ 出版社：福音館書店 P91/O

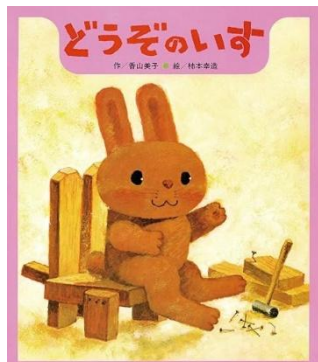


森に住むのねずみのぐりとぐらが、大きなたまごを見つるところから始まる物語です。ふたりはそのたまごを使って、森の中で大きなカステラを作ることになります。フライパンを持ち出し、力を合わせて準備を進めていきます。甘くておいしそうなおいに誘われて、森の動物たちも集まってきます。やがて焼き上がった大きなカステラを、みんなで分け合って食べます。シンプルなストーリーの中に、協力する楽しさや分か

ち合う喜びが描かれています。読むと自然と笑顔になれる、やさしく温かい一冊です。中高生の今だからこそ、「一緒に楽しむこと」の大切さを思い出させてくれる作品です。

## 『どうぞのいす』

絵：柿本幸造 作：香山美子 出版社：ひさかたチャイルド P91/K



小さいいすをきっかけに広がる、やさしさの連鎖を描いた物語です。うさぎさんは森の中にいすを作り、「どうぞのいす」と書いた立て札を置きます。そこへ最初にやってきたろばさんは、持っていたどんぐりを置いていきます。そのあとも動物たちが次々とやってきて、食べ物ももらったり置いていったりします。気づけば、最初に置かれたものとは違う贈り物が残っていました。物語はシンプルですが、やさしさがつながっていく様子が温

かく描かれています。「思いやりは巡っていく」という大切なメッセージが伝わってきます。中高生の今だからこそ、人にやさしくする意味を考えさせてくれる一冊です。

## 『泣いた赤鬼』

絵：浦沢直樹 作：浜田廣介 出版社：小学館 P91/U



文・浜田廣介 画・浦沢直樹

人間と仲良くなりたいと願う赤おにの物語です。赤おには、人間と友だちになりたいと思いつつも、怖がられてしまいます。そんな赤おにを見た青おには、ある作戦を考えます。青おにはわざと悪者のふりをして、赤おにが人間を助ける場面を作ります。そのおかげで、赤おには人間たちと仲良くなることができました。しかし、喜んで青おにの家を訪ねると、そこには姿がありませんでした。友だちのために自分を犠牲にした青おにの行動が、深い感動を呼びます。中高生の今だからこそ、本当の友情や思いやりの意味を考えさせてくれる一冊です。

## 図書委員会のお仕事

### 〈「のほ本」製作〉

「のほ本」では、各学年の図書委員が毎月おすすめの本を紹介し、各クラスとホームページに掲載しています。本のあらすじや魅力、印象に残った場面などをそれぞれの言葉で紹介しており、毎月デザインなども個性豊かです。歴代の「のほ本」は図書館に保管されており、過去のおすすめ本を振り返ることもできます。

### 〈蔵書点検〉

毎年 3 月に、図書館に所蔵されている本がすべて揃っているかどうかを確認する「蔵書点検」を行います。司書さんの指導のもと図書委員が協力しながら、1 冊 1 冊の本に貼られているバーコードを専用の機械で読み取って行きます。本が正しい場所に並んでいるかを確認したり、本の整理を行ったり、見つからない本がないかを調べたりする大切な作業です。とても大変な作業ですが、図書館の環境を整えるための、図書委員会の重要な仕事の一つです。

### 〈学校説明会〉

年に数回行われる学校説明会では、図書館に来校して下さった小学生の方々と本にまつわるゲームや活動を行っています。今年度は、絵本に出てきそうなワードをビンゴカードのマス目の紙に書いてもらい、お話を読んでいるのを聞きながら出てきたワードに丸をつけていく「絵本ビンゴ」を実施しました。小学生の皆さんが楽しそうに参加してくれ、読み聞かせに耳を傾けながら必死にビンゴを目指していく姿がとても印象的でした。絵本を通して交流を深める温かい時間となりました。

### 〈Book-On〉

図書委員会では、文化祭で「Book-On」という古本市を開いています。在校生や先生方から寄付していただいた古本や、雑誌のバックナンバーなどを図書委員が中心となって準備や販売を行います。本の陳列を工夫したり、ポップを作っておすすめを紹介したりと、より多くの人に手に取ってもらえるよう工夫しています。本を通して人と人がつながる取り組みです。

**編集後記**

最後まで図書館館報をご覧いただきありがとうございます。

一年間図書委員長を務めさせていただき、さまざまな貴重な経験をすることができました。最初は不安もありましたが、先生方や委員の皆さんの支えのおかげで、最後まで役目を果たすことができました。図書委員会の活動を通して、協力して一つのものを作り上げる楽しさや、本を通して人とつながる喜びを知り、私自身も成長できたと感じています。忙しく、大変なこともありましたが、その一つ一つがとても充実した時間であり、高校生活の中でも大切な思い出になりました。図書委員長という役割を任せていただけたことに心から感謝しています。ありがとうございました。

79 回生図書委員長

最後まで読んでいただき、ありがとうございました。この一年間、図書副委員長として学校説明会に来てくださった方への絵本の読み聞かせや、「のほ本」「館報」の制作など、これまでの人生の中で最も本に関わる機会の多い一年となりました。初めて知ることも多く、忙しいながらも楽しく活動することができました。特に、学校説明会で小学生に向けて絵本の読み聞かせを行った際には、「ありがとうございました」と言っていただくたびに、大きなやりがいを感じました。この一年間を通して、これまで以上に責任感と自覚を持つようになりました。図書副委員長として活動できたことを大変うれしく思っています。少しでも多くの方に本の楽しさを共有できていたなら幸いです。

79 回生図書副委員長